



研修医紹介

2024年度に新たに研修医となられた先生をご紹介します。

- ①所属（都道府県） ②出身大学（研究室） ③好きな動物 ④座右の銘 or 好きな言葉
- ⑤趣味 or マイブーム ⑥行動学をはじめたきっかけ ⑦一言



三木先生の愛猫ちゃん♥、ネコハラが日課だそうです。PCの上で見て見て♪アピール一枚📺ふんわりして可愛すぎる🥰

三木美里 先生

- ① DVMs どうぶつ医療センター横浜（神奈川県）
- ② 日本獣医生命科学大学（比較発達心理学教室）
- ③ 犬猫以外だとウォンバット、亀
- ④ 人間は考える葦である
- ⑤ AI と話すこと
- ⑥ 元々心理学に興味があったからかいつのまにか沼に。
- ⑦ 動物行動学が楽しくて大好きですが本当に奥が深くて…日々勉強中です。



よかった！

『推薦図書』教えてください！



まだ読んだことのない推薦図書はありますよね。皆様とすてきな本との出会いをお手伝いするため、おすすめの本を紹介し合うコーナーです。

今回は、パーニー動物病院の堂山有里先生からのご寄稿いただきました！ありがとうございます！

堂山のおすすめ



「困った行動」がなくなる犬のこころの処方箋

村田香織著 / 青春出版社 / 2022

この本の中には飼い主の心に響くアドバイスが分かりやすい言葉で書かれています。私たちはつい専門家の視点からのみ物事を考えてしまいますが、行動学的な問題のある犬とその飼い主にとって飼い主目線での実行しやすいアドバイスが得られることほど助けになることはありません。

また診察中やパピークラスなどで飼い主から相談される犬の困った行動について、科学的根拠に基づいた行動学的なアプローチが分かりやすく書いてあります。

行動診療を志す獣医師だけでなく、同僚の獣医師や看護師にも読んでもらえること犬の行動に対する理解が病院全体で深まる一冊だと思います。

パーニー動物病院 堂山有里（大阪府）

おすすめの推薦図書について、みなさんもぜひぜひ、ご感想をお寄せください(^^)/

行動診療科として 食べていく



行動診療科は儲からないというイメージがあるというのは、多くの先生方の共通の認識だと思えます。今回は、これから行動診療科一本で開業を考えている岸野が、行動診療科の中でも多くの症例を集めているぎふ動物行動クリニックの奥田先生に、『行動診療科で食べていくにはどうしたらいいか』について相談してみました。

岸野 (以下 K) : 奥田先生、本日は僕の人生相談よろしくお願ひします。

奥田 (以下 O) : 僕なんかにできることがあれば、ぜひぜひ。とはいえ、こっちは苦労してますけどね、よろしくお願ひします。

カウンセリングにかかる時間について

K : 早速相談なんですけど、集客を努力しまくって、すんごくうまくいったとしても、1件1件に時間がかかりすぎて1日に診れる件数が少なければ収益はあがりにくいですよ。奥田先生のところでは、どれくらいの時間で診てましたか。

O : 初診は90～110分くらい、120分診る症例は少ないかな。再診は最大で1時間程度で、30分以内で終われるようにしてますね。

K : 長すぎると飼い主さんも動物も疲れてしまうし、それくらいが標準なんですかね。私はオーナーさんの気持ちを受け止めるだけで時間かかることがあって初診で120分以上かかることも多いです。冗長にならないスキルが必要だなと思ひます。

O : ウチの場合、初診料/再診料 3300円+10分 1,100円でやっているけど、これに処方料などが乗った金額が単価だから、診察が長くなりすぎると、単位時間あたりの売上は低くなることになるので、そのあたりは多少意識はあるかな。もちろん、飼い主さんの不安を取り除くこと、安定した生活を送れることが第一なので、時間になったらハイ終了と言うことではないですけどね。



K : カウンセリングの時間と、飼い主さんの安心感というバランスは、考えないといけない内容ですね。

症例をみるのにかかるカウンセリング以外の時間について

カウンセリング自体の時間だけではなくて、カウンセリング以外の業務にかかる時間が長いのも悩みなんです。今、1時間カウンセリングし

てたら、報告書やら調剤やら会計でプラスで1時間以上はかかっています。

O : 僕は報告書については、聞きながら書いてるのがほとんどですね。診察後に直すのは10分以内。診察時間内にちょっとメモしますねとか言いながら必要なことはその時に書くようにしています。

K : そうなんですね、もしそれができたらだいぶ圧縮できますねえ。私はどうしてもカルテ情報の整理が後から必要になってしまいます。

O : その場で情報を整理してまとめられるようになるには経験が大きいんじゃないかと思ひますね。あとタイピングの速さも重要ですね。

K : 予約の受け付け～診察～処方のあたりはどうですか？

O : 診察以外は受付のスタッフがやってくれているので、獣医師がやることは少ないかも。

K : 一緒に働いてくれる人がいるから、先生のところは診療のスピードを速くできているわけですね。たくさん診れるから、人が雇えて、雇えるからもっと診れる…という好循環ですね。

カウンセリング以外の売上、客単価について



O : 飼い主さんが納得しやすい形で顧客単価あげるにはどうしたらいいかを考えるのは大切だと思います。例えば、ウチでは再診以降オンライン診療にする人も多いんですが、その場合、オンライン対応料 1,100円とかもらっています。飼い主さんからしたら、交通費と天秤にかけると払いやすいですよ。

また、処方料についても、対面だと1,100円だけど、郵送の場合、調剤郵送料として2,200円もらっています。これも、交通費に比べれば安いかなとなれば払ってもらいやすいですよ。

K : なるほど、時間あたりで値段が決まるカウンセリング代以外の部分をしっかりもらうようにすることが、行動診療科で収益を確保する上で重要なポイントな様ですね！

～今回はここまで～

『米国獣医動物行動学会レポート』



会場は熱気がすごい！！
200人以上の
・獣医師
・動物看護師
・トレーナー
が参加していました

6/18（火）、6/19（水）に開催された米国獣医動物行動学会（American College of Veterinary Behaviorist）に広報担当岸野が参加してまいりました！現地レポートをお送りいたします。

とにかく圧倒されたのは、ケースレポートです。痛みと問題行動の関連についての発表があり、10のケースを順に紹介していく内容でした。スポーツ医療の専門医と連携して、日本では見たことのないような手法で診断を行い、教科書に載っていないような治療が積極的に行われていました。PVPの発表に関しては、ケタミンを粘膜内投与したり、レベチラセタムを追加で使うなど、新たなアプローチを紹介していました。このような治療を、大学の研究者ではなく、一般の臨床家が開拓している姿に感銘を覚えました。



尾形庭子先生に会いし、ご案内して頂きました！誠にありがとうございました！



学会はアーカイブ配信もごございます。2日目の Practical Behavior Forum は“目から鱗”の連続です。大変おススメです。

ゴールドスタンダードを抑えた上で新たなアプローチに挑戦したり、症例を集めた研究を行えるのは、症例数が多いということが大きなポイントになっていると感じました。日本ではそれほどまでに症例を集められている病院はほとんどないと思います。アメリカのレベルに近づいていくには、症例がしっかり集まるようにすることは最低限必要なことだと思いました。

会員の窓

会員の日々を切り抜いて自由にご発信をいただく『会員の窓』コーナー。今回は、オンライン相談サービス『アニセフ』設立者の根来沙弥先生から⇒もみの木動物病院 野村真優子先生にバトンが渡りました！

はじめまして。私は大学卒業後より神戸市のもみの木動物病院で勤務しており、今年6年目になります。このような貴重な機会を頂き恐れ多いながらも嬉しく思います。

私は昨年、JAHA 認定こいぬこねこ教育アドバイザーを取得しましたので、そのお話をしたいと思います。

こいぬこねこ教育アドバイザーは、犬や猫と飼い主がより良い関係を築けるように、子犬子猫の困った行動への適切な対処法について指導します。日常生活の中で、動物のストレスを減らし、動物病院内での診療が円滑に行えるようサポートする役割を担っています。

パピークラスでの飼い主への指導や子犬のハンドリングがメインとなり、約3年間、(ベーシックコース・実践コース・インターンコース)を経て、認定試験に進みます。

私はもともと大勢の人前に立つことが得意ではなかったので、大きな声を出すことも、人前で何かやって見せることも最初は緊張と不安でストレス過多でしたが(笑)、3年目にはそれらのことが楽しんでできるようになっていました。

私がこの講習で最も学びになったのは、子犬の環境適応能力のスピードです。子犬の性格も十人十色、活発すぎて落ち着きがない子

から怖がりすぎて固まる子まで様々です。そんな子たちが、パピークラス最終回では、飼い主に抱っこされて落ち着けるようになったり、隠れずに他のわんちゃんと楽しく活発に遊んでいたりと...成犬とは比べ物にならない速さでさまざまなことを習得していく姿に毎度驚かされました。それと同時に、この時期に正しいしつけを指導することが、未来の問題行動の予防のために、いかに重要かということ思い知らされました。問題行動を主訴に来院される方のお話を聞くと、パピークラスで正しいしつけを学んでいたら...という症例が少なくないので、これからも、パピークラスの重要性を啓発していきたいと思います。

もみの木動物病院
野村 真優子

野村先生、ありがとうございました！
次はあなたにバトンが届くかも…。
バトンが回ってきた際はどうぞ楽しんでお引き受けください♪

事務局からのお知らせ

「研究会」から「学会」へ

2025年2月22日に開催した、日本獣医動物行動研究会第11回総会／一般社団法人日本獣医動物行動学会第1回総会では、多数のご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。おかげさまで、無事に法人設立を終え、旧研究会の業務・会計は法人に引継ぎを行うことができました。

法人化に伴い、新たにスタートした取り組みとして、法人賛助会員の募集がございます。これまでに5社の企業様より申し込みを頂き法人賛助会員に登録いただきました。法人賛助会員の皆さまには、学会と共に臨床行動学の普及にご助力頂きたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

また、2026年2月28日には第2回学術集会、3月1日には設立25周年記念シンポジウムが企画されております。学術集会班が企画を練っているところですが、行動学をしっかりと学べるプログラムになっており、非常に充実した2日間になると感じています。また、シンポジウムでは獣医師以外の参加募集も行い、より広い関係者の皆さまと学びを深める機会となっています。会員の皆様におかれましては、是非ご参加いただけますよう、日程の確保の程よろしく願いいたします。

研究会から学会になり、法人化を経て、学会会員の先生方だけでなく、周囲の関係者の皆さまと協力して臨床行動学を広めていける体制を少しずつ整えつつあります。是非、会員の皆様からも周りにお声かけ頂き、イベントへの参加や会員としての参加を促していただければ幸いです。

法人賛助会員の
皆さま

2025.07月末日現在
五十音順

株式会社ファームプレス 様
株式会社ミネルヴァコーポレーション 様
株式会社メニワン 様
セバ・ジャパン株式会社 様
日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社 様
物産アニマルヘルス株式会社 様

編集後記

ニュースレターを担当させて頂いてから3回目の発行となりました！ 🍌🍌🍌

日々の診療でお忙しい中、目を通してくださりました皆さま、本当にありがとうございます 😊

皆さまにもっと楽しんでもらえるよう、面白い企画を考えていきます。お楽しみにしてください！

皆様からの投稿もたくさんお待ちしております！ こんな企画があるといいな～など、ご意見ご感想など何でも広報の岸野 🍌vbm.kishino@gmail.com までおっしゃってください★